

野菜の年間栽培計画をたてよう！

野菜の主な連作障害の原因は、約85%が病気によるもの、約8%はセンチュウなどの虫害によるもの、ごく一部が微量要素欠乏など病虫害以外によるものといわれています。こうした連作障害を回避するためには、野菜の種類を組み合わせた作付けが大切です。

過去数年の作付経過を思い出しながら作物ごとの作型表を書き、畑ごとあてはめて作付け計画を作りましょう。

あくまで目安ですが野菜の連作制限の表を参考にしてください。

制限の程度	作物
連作しても害が少ない	ダイコン、ニンジン、カブ、タマネギ、コマツナ
1年間は別の作物をつくる	ホウレンソウ、シュンギク、ネギ、レタス、セルリー
2年間は別の作物をつくる	キュウリ、ハクサイ、キャベツ、イチゴ
3年間は別の作物をつくる	ウリ類、ソラマメ、サトイモ、インゲン
4～5年間は別の作物をつくる	トマト、ナス、ピーマン、ゴボウ、ジャガイモ、エダマメ、エンドウ

連作障害の原因

土壌から伝染する病気…ウリ科(つる割病、つる枯病)、ナス科(青枯病、萎ちょう病、半身萎ちょう病、褐色根腐病、カイヨウ病、TMV)、アブラナ科(萎黄病、ネコブ病、黒腐病、菌核病)、ユリ科(黒腐菌核病)、共通(各種立枯病)

土壌から伝染する虫害…各種ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ

根からでる毒素による…エンドウの忌地現象

地上部の飛来害虫……アブラナ科のコナガ、アオムシ

共通—ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、ハダニ、アブラムシ

輪作することは大切ですが、日当たりや土地の乾湿で作物を選ぶことも必要です。

光の強弱	適する野菜の種類
強(日当たりの良い)	キュウリ、カボチャ、スイカ、ナス、トマト、ピーマン、インゲン、スイートコーン、サツマイモ、ジャガイモ、ダイコン、ニンジン
中(半日陰)	イチゴ、ネギ、タマネギ、レタス、コマツナ、ホウレンソウ、ハクサイ、キャベツ、サトイモ
弱(日陰)	ミツバ、フキ、ショウガ、ニラ

土の湿りの程度	適する野菜の種類
湿(土塊を握ると手のひらがぬれる)	サトイモ、ミツバ、フダンソウ、ゴボウ、イチゴ

中(土塊を握ると湿り気を感じるが手のひらはぬれない)	ナス、キュウリ、エンドウ、タマネギ、ニンジン、シュンギク、ホウレンソウ、コマツナ
乾(土塊を握ってもあまり湿り気を感じない)	インゲン、トマト、スイカ、カボチャ、サツマイモ、キャベツ

それでも連作ぎみになってしまう場合、多種多様な土壌微生物が活発に働き、病原菌などを抑止する作用(静菌作用)の強い土づくりを目指すことが大切です。完熟した堆肥を作付け前には積極的に入れるようにしましょう。

[\(戻る\)](#)